

海ごみホットスポット調査の結果

岡山市役所環境事業課

岡山市では、令和4年3月に策定した「岡山市海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」に基づき、「資源循環」「海洋流出対策」「連携協働」を軸に海ごみ問題に取り組んでいます。

そこで、まずは身近な場所にどのようなごみがあるのかを把握するために、水路などに溜まった「ホットスポット」、ごみステーションがカラス等に荒らされたことによる「散乱ごみ」、道路などに直接捨てられた「ポイ捨てごみ」の情報を募集しました。

市民の皆さまから寄せられた、市内の海ごみに関する調査結果について報告します。

調査期間：令和8年2月3日～5月31日

◆岡山市における海ごみの状況

岡山市が面している瀬戸内海には、年間4,500tものごみが流入していると推計されています。発生原因のうち、最も多いのが陸からの流入であり、全体の66%にもものぼるとされています。

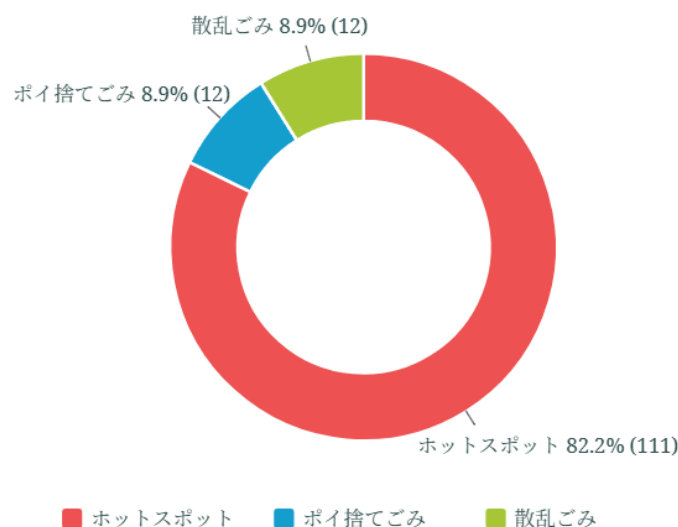
令和7年度に行った調査では、岡山市から瀬戸内海に流出するごみの量は年間124.9tと推計されました。

ポイ捨てや不法投棄等による陸からの流入を減らすことが喫緊の課題であり、用排水路や河川等へ流出してしまったごみを回収することも同様に重要となっています。

◆寄せられた海ごみ情報の集計結果

今回の調査では、合計135件の報告をいただきました。内訳はホットスポットが111件、ポイ捨て・散乱ごみがそれぞれ12件となっています。

寄せられた情報を以下にまとめました。

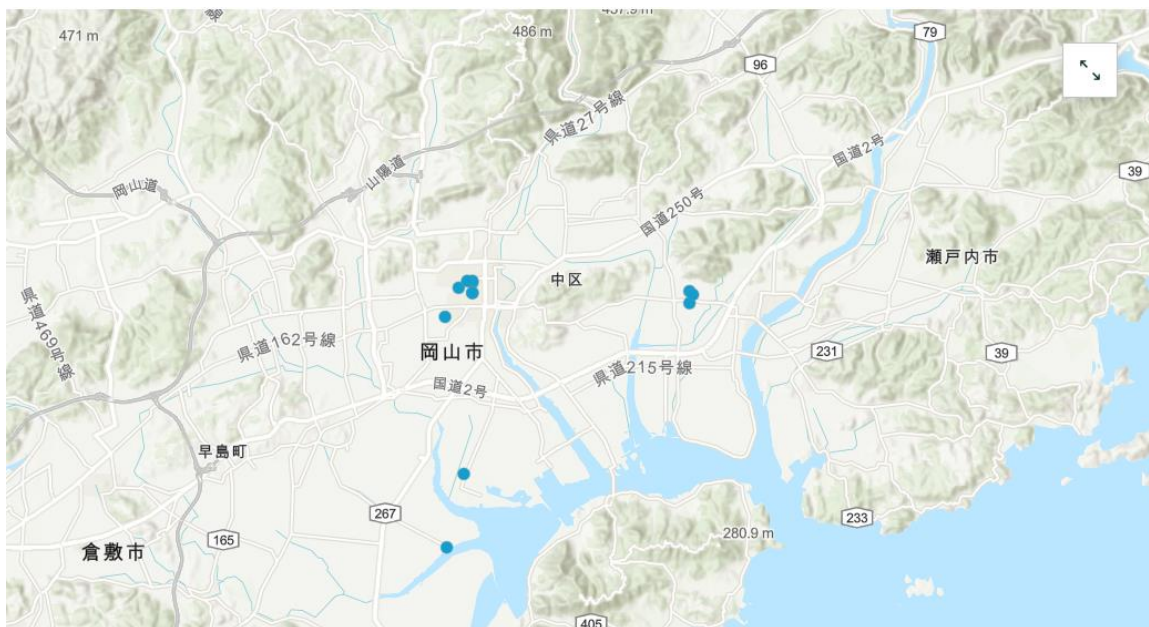


◆ポイ捨てごみ

市街地の道路脇や自動販売機周辺、植え込み等において、ペットボトルやプラスチック製の飲料容器などが放置されている状況が報告されました。

ごみをポイ捨てすることは、そのごみだけの問題にとどまらず、周囲の「これくらいならいいだろう」という気持ちを誘い、さらに新たなごみを呼び込むという悪循環に繋がる可能性があります。中には置き忘れたペットボトルが結果としてごみになってしまったものもあるかもしれません。こうしたごみも最終的には海ごみになってしまう可能性があります。

「ポイ捨てをしない」「ごみは必ず持ち帰る」「出先で放置しない」ことを徹底してほしいと思います。



ポイ捨てごみ報告箇所（青点）



寄せられたポイ捨てごみの写真

◆散乱ごみ

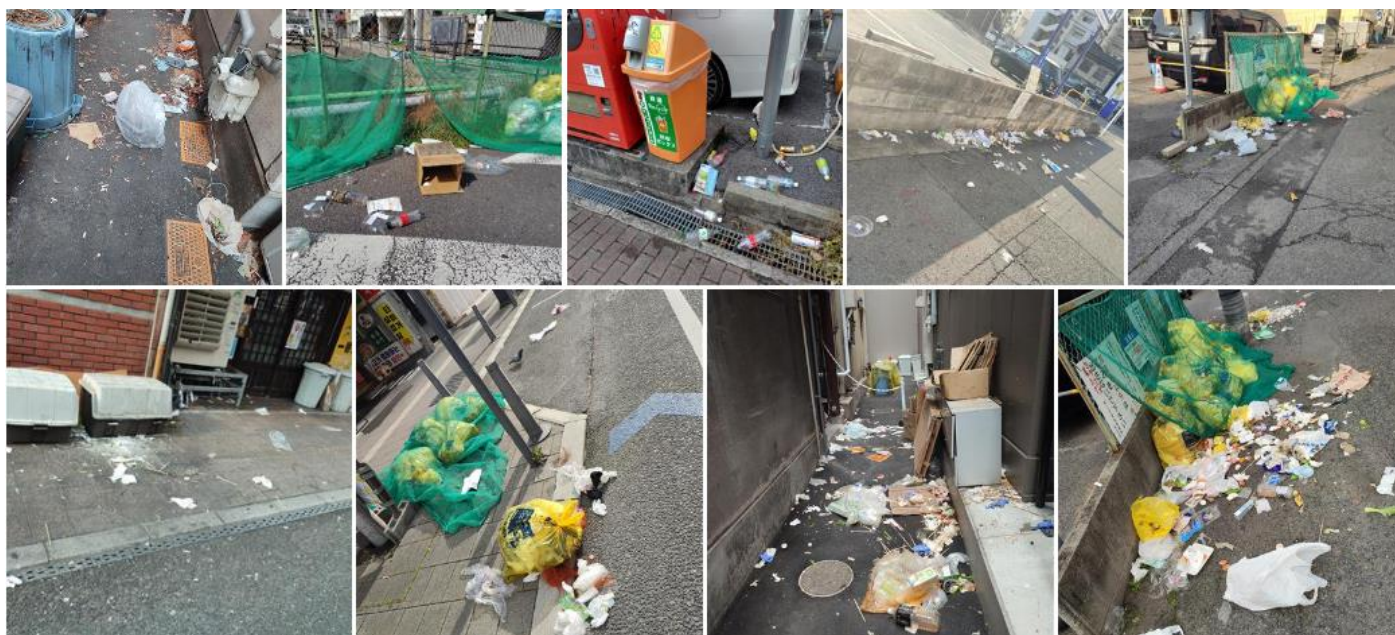
ごみステーション周辺において、収集日以外の排出や分別ルールが守られていないごみやカラス等の鳥獣によって散乱させられたプラスチックごみなどが報告されました。

ごみステーションでの一部の不適切な排出行為は、地域的美観を損ねるだけでなく、カラスなどによる被害を誘発し、周囲に広範囲にごみを散乱させてしまう傾向が見られます。

こうした散乱ごみが水路を通って海へ流れてしまうのを防ぐため、防鳥ネットを正しく使うことや、収集日を守るなど、ステーションを地域で正しく管理すること、そして一人ひとりがごみ出しのルールを心がけることが大切です。



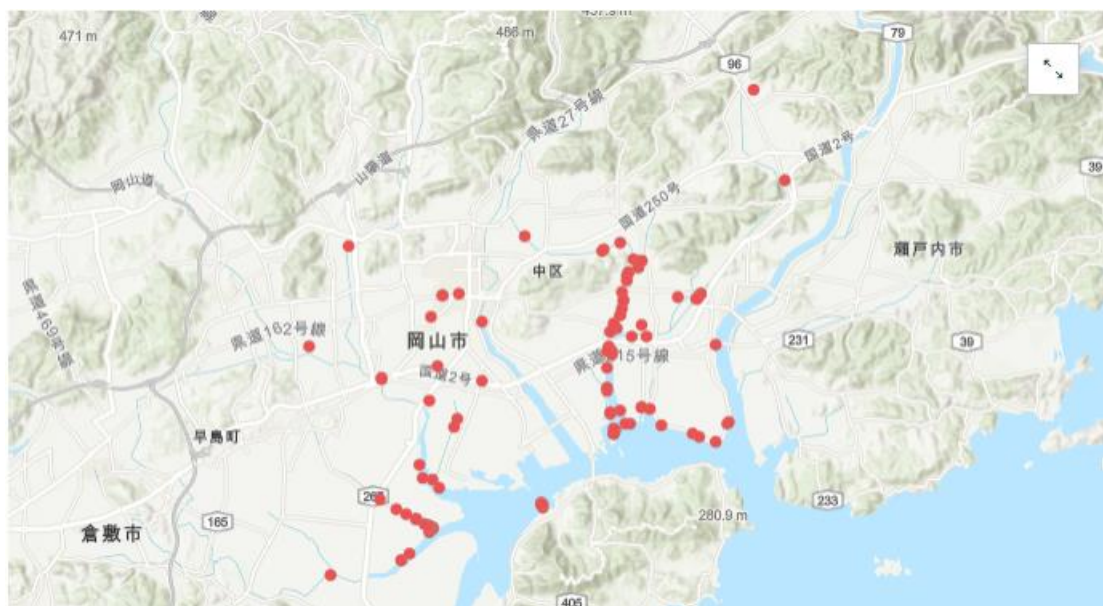
散乱ごみ報告箇所（緑点）



寄せられた散乱ごみの写真

◆ホットスポット

市内の河川において、水際や草むらの境目、水門の近くなどに、大量のペットボトルやプラスチックごみが集まって溜まっている状況が報告されました。これらは、街なかでの**ポイ捨てごみ**や、ごみステーションから風雨で飛ばされた**散乱ごみ**が、水路を伝ってここまで流れ着いたものと考えられます。こうして一度川に流れ出てしまったごみを拾うためには、足場の悪い川の水辺まで深く入っていかねばならず、回収には大変な苦労や危険が伴います。溜まっているごみも、大雨による増水などがきっかけでさらに下流へと押し流され、最終的に瀬戸内海の「海ごみ」になっています。



ホットスポット報告箇所（赤点）



寄せられたホットスポットの写真

◆調査結果の総括と今後の海ごみ対策への展開

今回の調査では、市民の皆様のご協力により、市内のごみ問題の実態を示す貴重なデータが多数寄せられました。中でもホットスポットの報告が最も多く、たくさんの方が海ごみに直結する場所に対して大きな関心を持っていることが伺えました。

一方で、寄せられた報告は全体のごく一部であることも事実です。

海ごみの7割は陸域で発生したもの原因とされています。今回ご報告いただいたポイ捨てごみや散乱ごみも、放置されればやがて水路を通じて海ごみとなってしまいます。

本市から出る海ごみの発生量は、年間124.9tにのぼると推計されており、この量を減らしていくためには、一人ひとりの環境意識が何よりも大切です。

皆様から寄せられたデータを効果的な流出防止対策へと役立てるとともに、美しいまちづくりと海ごみ削減に向けた取り組みを継続していきます。